

ひかわじんじゃほんでん  
川越市「氷川神社本殿」の国の重要文化財指定について

(同時発表：文部科学記者会)

国の文化審議会（会長：日比野 克彦）は、令和8年5月22日（金曜日）開催の同審議会文化財分科会での審議・議決を経て、川越市の「氷川神社本殿」を、重要文化財へ指定するよう、文部科学大臣に答申しました。

この結果、後日行われる官報告示を経て、県内の国宝・重要文化財は82件、うち建造物は30件となります。

【重要文化財の新指定】

○意匠豊かな装飾が調和した江戸後末期の関東社殿彫刻の到達点

ひかわじんじゃほんでん むね  
氷川神社本殿 1棟

○所有者 宗教法人 氷川神社

○所在の場所 川越市宮下町2丁目11番地

○特徴〔提供用写真別紙〕

唐破風造の向拝を備えた入母屋造、正面千鳥破風付、瓦棒銅板葺の神社本殿です。氷川神社は、川越城の北方に境内を構えた旧川越城下の総鎮守であり、現在の社殿は天保13年（1842年）から明治3年（1870年）にかけて造営されました。

川越藩のお抱え大工として川越城本丸御殿（県指定文化財）造営に携わった印藤捨五郎及び桑村三右衛門が大工棟梁として名を連ね、成田山新勝寺釈迦堂

（国指定重要文化財）等を手掛けた嶋村源蔵俊表と、箭弓稲荷神社（国指定重要文化財）造営にも参加した熊谷出身の飯田岩次郎が彫物師を担っています。

素木しらきの外観に濃密に施された装飾彫刻は、繊細かつ立体感にあふれ、日本神話から源氏の物語まで多彩な題材を巧みな構成力で彫り出します。一方で、一部衣装の文様を省略するなど、めりはりのきいた彫技ちようぎは建築と調和しています。また、腰羽目こしはめには、川越氷川祭において氏子が祭りに出す「天岩戸あまのいわと」など、当時の山車人形だしと対応する題材が採用されており、地域との繋がりも看取かんしゆされます。

本社は、江戸末期の関東に特徴的な、彫刻で満たされた素木の神社建築の到達点として高い評価を受けました。

○本件の詳細に関するお問い合わせ先

川越市教育委員会 文化財保護課 電話 049-224-6097（直通）

【提供用写真】

【氷川神社本殿】



正面（南面）



側面（南東より）



背面（北面）



うのけとお ほうおう  
卯ノ毛通し 鳳凰



ごはいなかぞえめぬきりゆう  
向拝中備目貫龍



こしはめ あまのいわと  
腰羽目「天岩戸」(東面)